

サイエンス株式会社

業務用機械器具製造業

環境・省エネ・健康をテーマに浴槽用ろ過装置を中心とした製品開発を行う企業。配管設備工事業から発展し、製造販売だけでなく設置工事からメンテナンスまでワンストップで対応できる技術力が強み。

補助事業名	さいたま市DX推進補助金	実施時期	令和3年度
申請テーマ	総合決済ASPサービスの導入による業務負荷軽減		

コンビニ決済システム導入の取り組みと成果

同社は、環境・省エネ・健康をテーマにした商品を開発している企業である。配管設備工事業からスタートし、浴槽用のろ過装置を中心に事業を展開してきた。製造販売だけでなく、設置工事からメンテナンスまで機器のライフサイクル全般に対応できる技術力が強みである。高い技術と顧客との関係構築力を活かし、長年にわたり安定した事業基盤を築いてきた。

DXを成長戦略として位置づけ、顧客満足と業務効率の向上を目指す中、既存の基幹システムの請求業務に課題を抱えていた。高齢顧客の銀行振込負担や複数決済方法の混在による管理業務の煩雑さが問題だった。特に口座振替サービス利用顧客への対応は、毎月のリスト抽出や金額確認に人的リソースを要し、効率化の妨げとなっていた。

この課題解決のため、補助金を活用し決済方法をコンビニ決済へ統一。基幹システムの効率化と外部決済サービスの連携により、コンビニやスマートフォンでの支払いを可能にした。情報システム・経理部門を中心としたチームが現場の声を取り入れながら推進した結果、スムーズな導入が実現した。

その結果、決済管理業務が効率化され、請求処理負担が大幅に軽減された。顧客の利便性向上も顕著で、導入後は多くの顧客がコンビニ払いを選択、最終的にはほぼ全顧客がこの方法を利用するようになった。振込忘れの減少と支払期限設定により未払いが減少し、資金回収も安定化。口座振替業務担当者が他の顧客サービスに注力できるようになり、業務効率と顧客満足の双方が向上した。導入後はマニュアル整備により組織的な取り組みとして定着し、持続的な効果を生み出している。



ろ過装置



排熱回収型ヒートポンプ

DXを企業文化に定着させる長期戦略

コンビニ決済の導入を契機として、社内でのDX推進の意識が高まり、他の業務領域にもDXを拡大する動きが生まれた。その一環として、請求書の電子化や文書管理システムといった、新たなDX施策が進められている。

同社ではDX推進を「限られた人員で高いパフォーマンスを発揮できる環境を構築すること」を目的としており、今後も積極的にDX化を進める方針だ。現在進行中のDX施策としては、人材管理システムの導入がある。これは社内の人材データを一元管理し、適切な配置や育成を支援するシステムであり、人材のスキルや成長を可視化し、より効率的な人材活用ができる仕組みを構築するものである。

また、請求書の電子化も進められており、これまで紙の請求書を発行していたが、電子化することで業務負担の軽減とコスト削減を図っている。特に、インボイス制度や電子帳簿保存法への対応が求められる中で、適切な管理ができる環境を整備中である。

DX推進の基本方針としては、専門のDX推進部門は設けず、各部署からの現場の意見を吸い上げながらDX化を進めるスタイルを採用している。具体的な業務改善の要望が出たら、それを元に適切なシステムを選定し、社内導入を進めるアプローチを取っている。会社全体としてはDXに対する抵抗感は少なく、現場の意見を尊重しながら実施することでスムーズな導入が可能となっている。

DX化の効果が徐々に現れており、社内の効率化や顧客対応の改善につながっていることを実感している。人件費の削減を直接的な目的とするのではなく、業務の最適化や従業員の生産性向上を重視しながらDXを進めていく方針である。中小企業として着実にDXを推進し、今後も最新のテクノロジーを取り入れながら成長していくビジョンを掲げている。

Company Date

- 代表取締役：桑原 崇
- 所在地：埼玉県さいたま市北区
- 資本金：4,825万円
- 従業員数：42名
- 設立年月日：1974年5月
- URL：<https://science-inc.jp/>